

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	1-1-3			事業名	子育てアドバイザー養成・活動促進事業		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
サンデーサロン実施施設数	－	2カ所	4カ所	5カ所	6カ所	5カ所	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加 子育てアドバイザーの活動場所を広げることで、市民の子育てに対する関心を高め、市民ボランティアなどとして自発的に市民参加するきっかけづくりになっている。また、子育てアドバイザーの活動場所ひとつであるサンデーサロンは、休日に開催することで、普段は参加が難しい父親が子育て支援活動に加わることに寄与している。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] (該当なし) [人材協力] (該当なし) [情報協力] (該当なし) [その他の協力] 企業が実施する子育て支援事業の発展に伴い、子育てアドバイザーの活動機会の増加に期待できる。</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり 一般市民が子育て支援に関する専門的な知識を持つアドバイザー(子育てボランティア)となり、活動の場において市民の子育て支援に対する関心を高めることにより、子育て支援に関して自発的な市民参加につながっている。</p>							
評価(成果)			課題				
<p>専門的な知識を持つ子育てアドバイザーを活用して実施しているサンデーサロンやシティサロンは、子育て支援に関する情報提供の場であるほか、特にサンデーサロンは、父親の育児参加の場になっており、子育て支援の社会的な広がりにつながっている。</p>			<p>現在、子育てアドバイザーは、サンデーサロンやシティサロンを中心とした子育てサロンを主な活動場所としているが、今後は、民間事業との連携も含め、スキルに見合った活動機会を安定供給していく必要がある。また、人材育成の面では、より気軽に参加できる子育てボランティアの育成にシフトしていく。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>市が行う事業のみでなく、企業・団体と連携した活動の場などを含め、子育てアドバイザーのスキルを活かせる機会をいかに多く提供していくかを検討し、市民と行政の協働へつなげていく。</p>							

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		1-1-3			事業名	子育てアドバイザー養成・活動促進事業				
事業費の推移										
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計				
計画	事業費	6,700	5,720	720	860	14,000				
	財源内訳									
	国・道支出金	6,300	4,900	300	300	11,800				
	市の債	0	0	0	0	0				
予算	事業費	6,700	6,100	860	930	14,590				
	財源内訳									
	国・道支出金	6,300	5,300	0	0	11,600				
	市の債	0	0	0	0	0				
実績	事業費	5,683	819	894	—	7,396				
	財源内訳									
	国・道支出金	5,159	0	0		5,159				
	市の債	0	0	0		0				
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H21予算事業費) / (計画事業費)				59.2%				
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
《全体》										
[19年度]										
[20年度] 有償活動を前提とした子育てアドバイザーの活動機会の拡大が容易に進まないことから、子育てアドバイザー養成講座を一旦休止し、アドバイザーの資質の充実を図るため子育てアドバイザーバックアップ研修の実施に変更したため、実績が予算を大きく下回った。										
[21年度] サンデーサロンに係る除雪費用が予算措置されていないことなどから、実績が予算額を上回った。										
[22年度]										